

Changes in maternal consciousness after childbirth and related paternal and family support

宮中, 文子

<https://doi.org/10.15017/458567>

出版情報 : 九州芸術工科大学, 2003, 博士 (芸術工学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

第4章 考察

出産後10か月時に母親と父親に対して質問紙調査を行い、母親意識とそれに影響する要因を明らかにするとともに、父親意識の関連要因についても検討した。その結果、母親意識に関する肯定的質問のうち、「子どもはかわいい、見つめてくれる、嬉しい、幸せ、楽しい」などの愛着を主とした質問には、殆どの母親が「とてもそう、そう」と回答し、また、否定的質問の「子育てから解放されたい」には70%以上の母親が「とてもそう、そう」と回答していて、初産婦も経産婦も同じ傾向であった。しかし、「子育てでイライラすることがある」、「子どもを叱るあまり手をあげることがある」に「とてもそう、そう」と回答した割合は初産婦よりも経産婦の方が高い傾向であった。また、20歳～24歳において、初産婦で「子どもを叱るあまり手をあげることがある」や、経産婦で「子育てが負担である」は多い傾向であり、若い母親に育児の困難感が生じていることが推測された。そして、母親意識の合計得点は、経産婦は初産婦に比較し低い傾向であったことから、経産婦では複数児の子育てによる育児の疲労や負担感によるものと推測された。

母親意識が高いことと、母親自身が非抑鬱が高く、自己価値観が高く、夫婦関係の親密度が高く、性別役割分業観が伝統的であること、父親意識が高いことと有意な関連が認められた。しかし、父親の育児、家事、および精神的な支援との関連は認められなかった。これらについて考察を加えた。

母親意識に関連する非抑鬱については、先行研究(宮中,1994)と同様の傾向である。年齢が若いほど抑鬱傾向が高かったことから、初産婦における育児不安や経産婦における複数児の子育てによるストレスに伴い、若い母親ほど抑鬱傾向が生じやすいものと考えられる。

自己価値観との関連については、自己価値観は自分自身への認識で健康な自己愛を表し、年齢が高くなるほど自己価値観が高いとされている。本対象でも年齢による差が認められ、35歳以上群では他の年齢群より自己価値観が高い傾向であった。全体の平均値は非妊婦に比較してやや高い(宮中,1998)ものの、女性の標準値の範囲内と考えられる(菅,1984)。自己価値観の低い母親では、子育

てにおいて自信が得られず、不適応感を持つ者がいることが推測される。

夫婦関係との関連については、夫に対する愛着と子どもに対する愛着とは類似しているとの報告（大日向,1988）がある。夫婦関係の合計得点には年齢および初・経産婦群別に関連は認められなかったものの、経産婦では年齢が高くなるほど「夫の援助に満足、夫の示す態度に満足」などが多くなる傾向であった。夫婦関係は、結婚・出産・育児の過程において形成し発展していくものであり、良好な夫婦関係は母親意識の高いことに影響すると考えられる（Belsky,1993）。

性別役割分業観が伝統的であることと母親意識が高いことの関連性については、性別役割分業観は女性の家庭役割やキャリア追及に関する質問項目を多く含む尺度であり、その規範の内在化は青年期までに形成するもの（関井ら,1991）、とされることや、対象の76.2%が就労していない母親であることから、育児や家庭は女性の役割と認識しているもののほうが高い母親意識を表すこととなったのではないかと考えられる。

次に父親意識は、経産婦の父親に「子育てでイライラすることがある」「子どもを叱るあまり思わず手をあげることがある」が多く、母親意識と同様の傾向であった。その父親意識の合計得点は、初・経産婦群別に有意な差が認められなかったが、年齢群による違いがあり20～24歳群では、他の全ての年齢群に比較して高いことが母親意識とは異なっていた。これは、若い父親では育児への関わりもまだ少なく、実際の育児により生じる否定的な気持ちが少ないためと推測される。

父親の育児は、初・経産婦別や年齢群別の差が認められなかったことから、子どもが複数児となっても育児行動の増加がみられないことを示唆している。父親の育児と父親意識との関連性は、ここでは重相関係数の数値も低く明確にはならなかったものの、出産後1か月の調査では関連性が認められている（宮中ら,1998）。父親が子どもと関わることにより親としての意識が形成・発達するものと考えている（Lamb,1976；大日向,1988；柏木ら,1993）。

父親の家事は、買い物は約7割の父親が行っていたが、掃除、洗濯、料理に至っては実施率は少なかった。初・経産婦別に差は認められず、30歳～35歳群では多く行われていたが、その他の年代では家事の実施率が少ないという現状であった。父親の家事は母親意識に直接には関与しないものとする。

妻への精神的支援は母親意識との有意な関連性が認められなかったが、先行研究では、母親意識が高い者では妻への精神的支援が多い夫が多く有意な関連が認められている(宮中,1999/2001)。妻への精神的支援については、「妻の子育ての大変さを理解する」および「子育てについて妻と話し合う」を70%以上の父親が行っていたが、その内容は情動的・情緒的サポートであり、実施率は多いとしても有効な支援かどうかその質が求められるものといえる。

母親意識と属性項目との関係については、母親意識の高い者に3世代家族が多く、有意な関連性が認められたことから、母親には夫のみならず、夫以外の家族、特に祖母の育児支援が影響していると推測される(宮中ら,1996)。一般的に核家族の場合においても、出産後早期においては里帰りにより祖母の育児支援を受ける母親が多いが、こうした支援は出産後10か月頃では次第に少なくなり、逆に父親の育児参加が増えていく(松岡ら,1996)。3世代家族の場合は継続的に祖母の支援を受けることが可能であり、日常的な子育てに伴う母親の心理的ストレスを軽減させているものと推測される。

これらのことから、母親意識が高いことには、母親自身の非抑鬱が高いこと、自己価値観が高いこと、夫婦関係の親密度が高いこと、性別役割分業観が伝統的であること、夫の父親意識が高いことが関連することが考えられた。また、同居家族の支援との関連も示唆された。

母親意識を高めるには、初産婦のみならず経産婦に対しても、子育て不安や困難感の軽減を図ることや、父親の子どもとの関わりが重要と考えた。

第Ⅱ部の小括

出産後10か月の母親と父親に対する質問紙調査を行い425組について母親意識とそれに関連する要因について検討した。

①母親意識に関する肯定的質問のうち、「子どもはかわいい、見つめてくれる、嬉しい、幸せ、楽しい」などの愛着を主とした質問には、殆どの母親が「とてもそう、そう」と回答していたが、初産婦よりも経産婦の方が、否定的質問の「子育てでイライラすることがある」、「子どもを叱るあまり手をあげることがある」に「とてもそう、そう」と回答した割合が高かった。

②母親意識の合計得点は、35歳以上群以外のすべての年齢群において、経産婦は初産婦に比較し低い傾向であったことから、複数児の子育てによる育児の疲労や負担によるものと考えた。

③各項目の合計得点はすべて、初経産間での有意な差は認められなかった。ただ、年齢群による違いで、非抑鬱および自己価値観では35歳以上群が他の年齢群に比較して高かった。しかし、夫婦関係、性別役割分業観では年齢群による有意な差は認められなかった。また、父親意識は20～24歳群では、他の年齢群に比較して高く、父親の家事は30～35歳群で高かったが、父親の育児および妻への精神的支援では年齢群による有意な差は認められなかった。

④母親意識の合計得点を目的変数に、属性項目および各項目の合計得点を説明変数とする重回帰分析の結果、母親意識が高いことに関連していたのは、母親自身の非抑鬱が高いこと、自己価値観が高いこと、夫婦関係の親密度が高いこと、性別役割分業観が伝統的であること、夫の父親意識が高いことなどであり、これらが母親意識に関連する要因と考えた。

これらのことから、母親意識を高めるには、初産婦のみならず経産婦に対しても、子育て不安や困難感の軽減を図ることや、父親の子どもとの関わりが重要と考えた。

引用文献

- Belsky, J. and Kelly, J., (1993), The transition to parenthood; 安次嶺 佳子 (訳) : 子どもを持つと夫婦に何が起こるか, 東京, 草思社, 1995, 9-33.
- Dreyer, N.A., Woods, N.F. and James, S.A., (1981): ISRO-A scale to measure sex-role orientation, *Sex Roles*, (2), 173-182.
- 花沢成一 (1996) : 母性心理学, 医学書院, 61-91.
- 日暮眞 (1992/1993/1994) : 育児における父親の役割と保健指導に関する研究 I, II, III, 平成4, 5, 6年度厚生省心身障害研究報告書.
- 平井信義 (1981) : 母性愛の研究, 東京, 同文書院, 56-169.
- 平山宗弘 (1989/1990/1991) : 育児における父親の役割に関する研究 I, II, III, 平成元, 2, 3年度厚生省心身障害研究報告書.
- 星野命 (1970) : 感情の心理と教育, *児童心理*, 24, 1445-1477.
- 我部山キヨ子 (1986) : マタニティブルーの調査研究, *周産期医学*, 16(3), 401-408.
- 柏木恵子 (1993) : 父親の発達心理学, 川島書店.
- 川井尚, 庄司順一, 恒次欽也 (1996) : 育児不安に関する基礎的研究(1)(2), 第43回小児保健研究学会集録集, 1996, 76-79.
- 厚生統計協会 (1998) : 国民衛生の動向, 43-47.
- Lamb, M.E. (1976) : The roll of the father in child development; 久米稔, 他 (1981) 訳 : 父親の役割, 家政教育社, 7-42.
- 牧野カツコ (1982) : 乳幼児を持つ母親の育児不安—父親の生活および意識との関連, *家庭教育研究所紀要*, (3), 34-56.
- 松岡知子, 岩脇陽子, 宮中文子 (1997) : 母親からみた祖母の子育て支援の実態, *京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要*, 6(2), 15-23.
- 宮中文子 (1998) : 青年女子の月経随伴症状と母性性に関する研究 (第2報) — 母性性との関連から, *母性衛生*, 39(2), 245-249.
- 宮中文子 (1999) : 子育て支援における家族の関係, 第4回公開講座「家庭と地域をつなぐ子育て支援」の概略とまとめ, *京府医短紀要*, 9, 121-126.

- 宮中文字子(2001)：「母親への発達」に影響する父親および家族の要因—出産後10か月の調査による分析，母性衛生，42(4)，677-685.
- 宮中文字子(2001)：母親への発達とそれに関連する父親・家族の要因，福祉と人間科学，12,144-182.
- 宮中文字子，松岡知子(1994)：マタニティブルーと出産体験・対児感情との関連性，京府医短紀要1(1)，145-148.
- 宮中文字子，松岡知子，西田茂樹，岩脇陽子，中谷公子，中島健二(1996)：中高年女性(祖母)の子育て参加の実態と心理的健康との関連について(第1報)，老年社会科学，17(1)，21-29.
- 宮中文字子，松岡知子，新道幸恵，脇田満里子，入澤みち子，渡辺和江，川中洋子，諸岡豊子，長尾早枝子(1994)：周産期における母親意識の発達過程とマタニティブルーとの関連性．日本助産学会雑誌，8(1)，32-41.
- 宮中文字子，松岡知子，山口三貴子，吉岡博，澤田淳(1998)：新生児期における父親の子育てと父親意識について，京府医短紀要，7(2)，101-107.
- Muller,M.E.(1993):Development of the prenatal attachment inventory, Western journal of nursing research,15(2),199-215.
- 日本子ども家庭総合研究所(1998)編：日本子ども資料年鑑，KTG 中央出版，71-106.
- 大日向雅美(1988)：母性の研究，東京，川島書店，257-298.
- 岡崎祐士(1986)：産褥期精神障害とマタニティブルー，周産期医学，16(3)，341-346.
- Pedersen,F.A.(1980)：依田明(1986)訳：父子関係の心理学，新曜社，1-26.
- Pitt,B.,(1973)：Maternity blues, Br J,Psychiatry, 122, 431-433.
- Rosenberg,M.(1965):Society and the adolescent self-image,Princeton:Princeton Univ Press.Mar-Apr,46(3-4), 124-130.
- 関井友子，斧出節子，松田智子，山根真理(1991)：働く母親の性別役割分業観と育児援助ネットワーク，家族社会学研究，72-84.
- 新道幸恵，松岡恵，高木広文(1987)：産褥早期の褥婦の母性意識に関与する因子について，母性衛生，28(2)，208-213.

Smilkstein, G., Ashworth, C., and Montano, D., (1982) : Validity and reliability of the family APGAR as a test of family function, The Journal Family Practice, 15(2), 303-311.

菅佐和子(1984) : S E (Self-Esteem) について, 看護研究, 17(2), 21-27.

高橋三郎, 飯田英晴, 竹村喬, 鈴木雅洲, 室岡一 : わが国におけるマタニティブルーの実態, ペリネイタルケア増刊号, 79-92, 1986.

高橋種昭, 高野陽, 小宮山要, 窪龍子, 丹羽勝子(1992) : 小児の養育における父親の役割について, 平成3年度厚生省心身障害研究報告書, 292-301.

Zung, W.W.K. (1965) : A self-rating depression scale, Arch. Gen. Psychiatry, 12, 63-70.